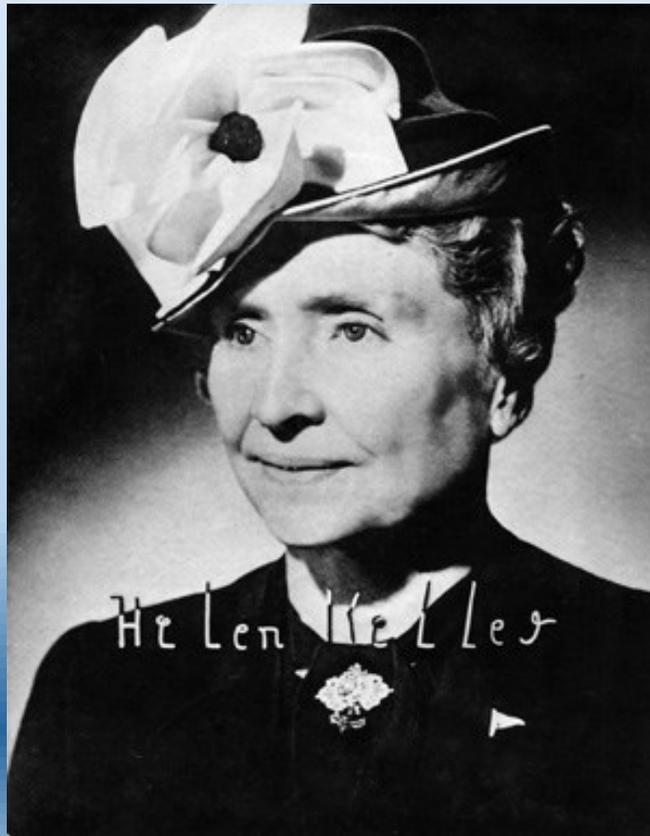


# ヘレンケラーと塙保己一



# ヘレンケラーと塙保己一

塙保己一先生は、江戸時代

誕生：延享3年（1746年）

死亡：文政4年（1821年）



塙 保己一は、江戸時代の国学者。  
盲人最高位の総検校。  
和学講談所を創立し、群書類従や  
続群書類従を編纂した。

延享3年5月5日（1746年6月23日）～  
文政4年9月12日（1821年10月7日）



武蔵国児玉郡保木野村（埼玉県本庄市児玉町保木野）に生まれる。

父は荻野宇兵衛、母は賀美郡藤木戸村（上里町藤木戸）の名主斎藤理左衛門の娘（きよ）。

幼名は丙寅（ひのえとら）にちなみ寅之助（とらのすけ）、失明後に辰之助（たつのすけ）と改める。一時期、多聞房（たもんぼう）とも名乗る。

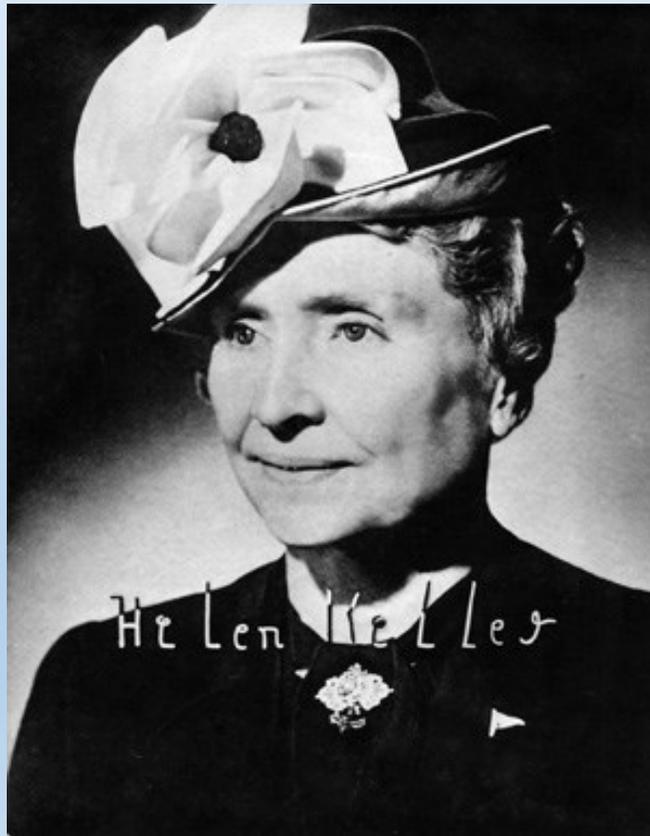
雨富検校に入門してからは、千弥（せんや）、保木野一（ほきのいち）、勾当の時に塙保己一（はなわ ほきいち）と改名した。

5歳の時に病気になり、7歳の春に失明した。  
15歳で江戸に出て、盲人の修行を始めるが、学問をしたくて自殺も考える。その後、学問を続けられた。

天明3年（1783年）に検校となる。  
寛政5年（1793年）幕府に土地拝借を願い出て和学講談所を開設、会読を始める。

『群書類従』の編纂を始める。42年後に完成。  
文政4年（1821年）に総検校になる。  
同年9月に76歳で死去。幕府への正式な届けは翌年、四男塙次郎忠宝が跡を継いだ。

# ヘレンケラーと塙保己一



ヘレン・ケラー女史は

誕生：1880年（明治13年）

死亡：1968年（昭和43年）

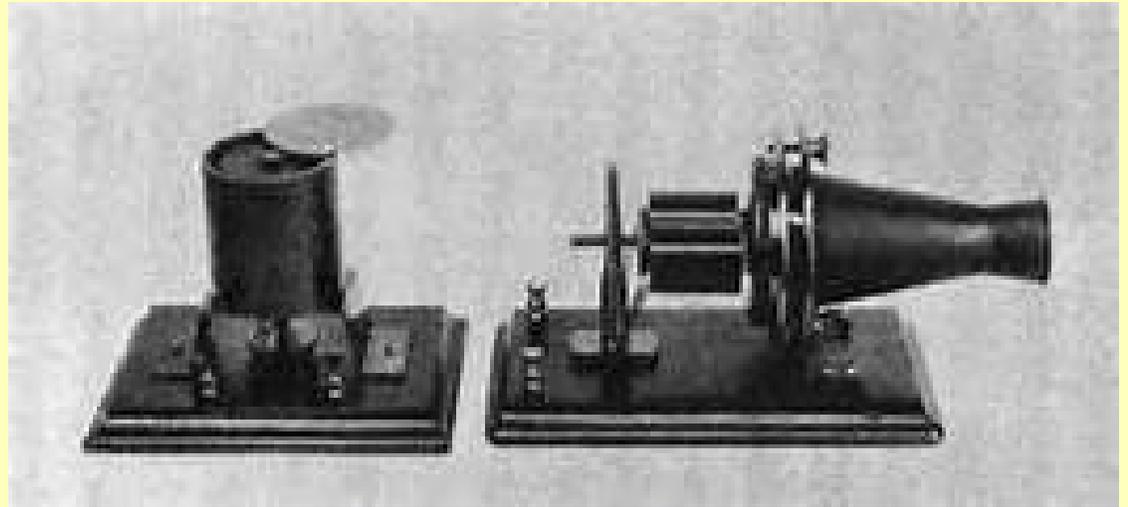
塙先生の没後60年に生まれています



ヘレン・ケラーさんは、目が見えず耳も聞こえないので、父親は、グラハム・ベル博士に要請して、サリバン先生を派遣してもらいました。

サリバン先生は、大変な努力で指文字を教えました。

サリバン先生を派遣したグラハム・ベル博士は、  
聴覚障害者の研究をしていました。  
研究の一環として電話器も発明しています。



グラハム・ベル博士と電話器

ヘレン・アダムス・ケラー（1880年6月27日 - 1968年6月1日）は、アメリカ合衆国の作家。



（1904年頃）14歳

視覚と聴覚の重複障害者（盲ろう者）でありながらも世界各地を歴訪し、障害者の教育・福祉の発展に尽くした。



二度目の来日をしたヘレン・ケラー。68歳忠犬ハチ公像に触れる。（1948年8月30日）

1880年6月27日 - ヘレン・ケラーは、アメリカ合衆国のアラバマ州タスカンビアで誕生。

父はドイツ系の地主（南部の名家）の息子で、南北戦争当時は南軍大尉。

1882年 - 1歳半の時に高熱（現在では猩紅熱と考えられている）に伴う髄膜炎に罹患する。医師と家族の懸命な治療により一命は取り留めたものの、視力と聴力を失い、話すことさえ出来なくなかった。そのため両親からしつけを受けることの出来ない状態となり、非常にわがままに育ってしまう。

1887年（7歳）ヘレンの両親は聴覚障害児の教育を研究していたグラハム・ベルを訪れ、家庭教師の派遣を要請した。派遣されたのが、当時20歳のアン・サリバンだった。サリバンは小さい頃から弱視であったため、自分の経験を活かしてヘレンに「しつけ」「指文字」「言葉」を教えた。おかげでヘレンはあきらめかけていた「話すこと」が出来るようになった。

サリバンはその後、約50年に渡りよき教師、そしてよき友人としてヘレンを支えていくことになる。

アン・サリバン（1866年-1936年）は、ヘレン・ケラーの家庭教師です。日本では「サリバン先生」の名で知られている。ヘレン・ケラーは彼女のおかげで、目・耳・声の三重の身体障害を克服した。

3歳の時、目の病気トラコーマとなる。9歳のとき母親が亡くなり、救貧院へ移り住んだ。アンは目の病気の悪化によって視力を失う。

病院の看護婦からキリスト教の教えを受け14歳の時にパーキンス盲学校に入り、訓練と数度の手術の結果、視力を回復する。ただし光に弱く、常にサングラスをかけていた。

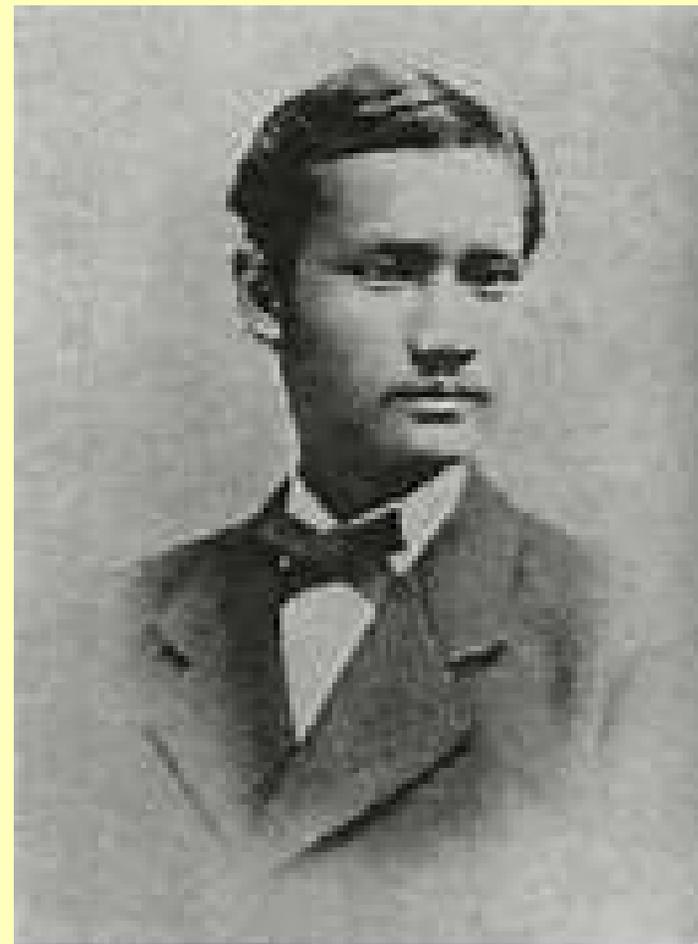
聴覚障害児の教育を研究していたグラハム・ベルの紹介で、21歳のアンが7歳のヘレン・ケラーの家庭教師を始めた。ヘレン・ケラーは意思疎通ができる様になり大学へ入学。ヘレンの旅行や、様々な講演旅行へ同伴して、彼女を支援し続けた。アンは1936年10月20日 死去。70歳。ワシントンD.C.の国立大聖堂の記念碑に埋葬。



8歳の頃のヘレン・ケラーと、22歳のアン・サリバン先生

文部省の役人 井沢修二さんは、  
アメリカ留学中に、グラハム・ベル博士を訪ね、日本人で初めて電話を使い、指文字を習っています。

井沢修二さんは、グラハム・ベル博士に、盲人でも立派な業績を挙げた塙保己一先生の事を紹介したと思われまます。



留学時代の井沢修二

井沢修二さんには、吃音の兄弟がいました。そして、吃音研究で有名なグラハム・ベル博士を訪ねています。



還暦の井沢修二

日本の教育者、文部官僚。近代日本の音楽教育、吃音矯正の第一人者です。

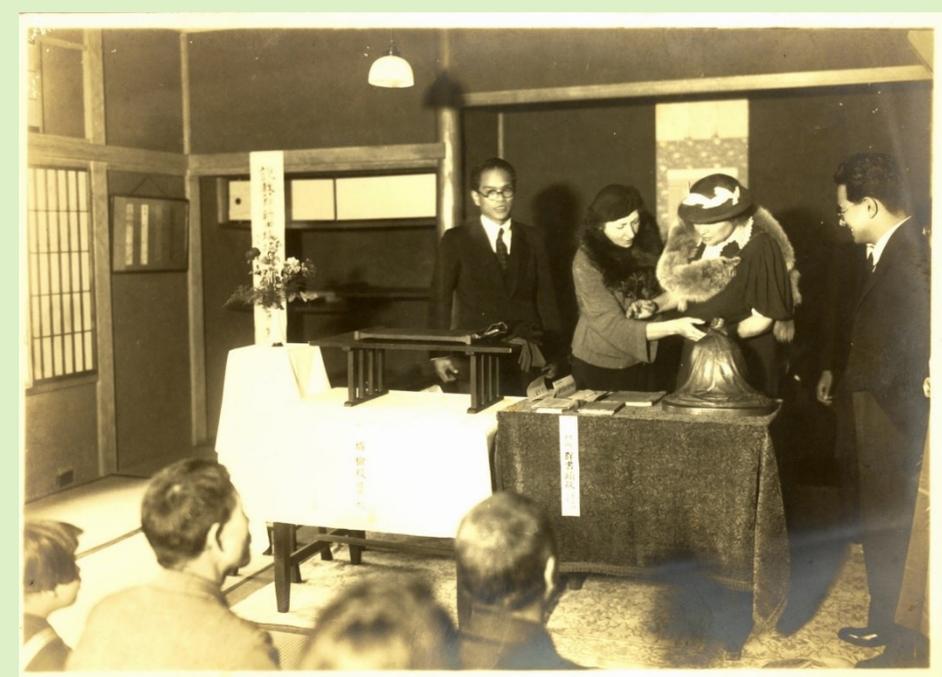
後に小学唱歌を作りました。





ヘレン・ケラーさんは努力して大学を卒業し、世界各地を歴訪して障害者の教育や福祉の発展に尽くしました。

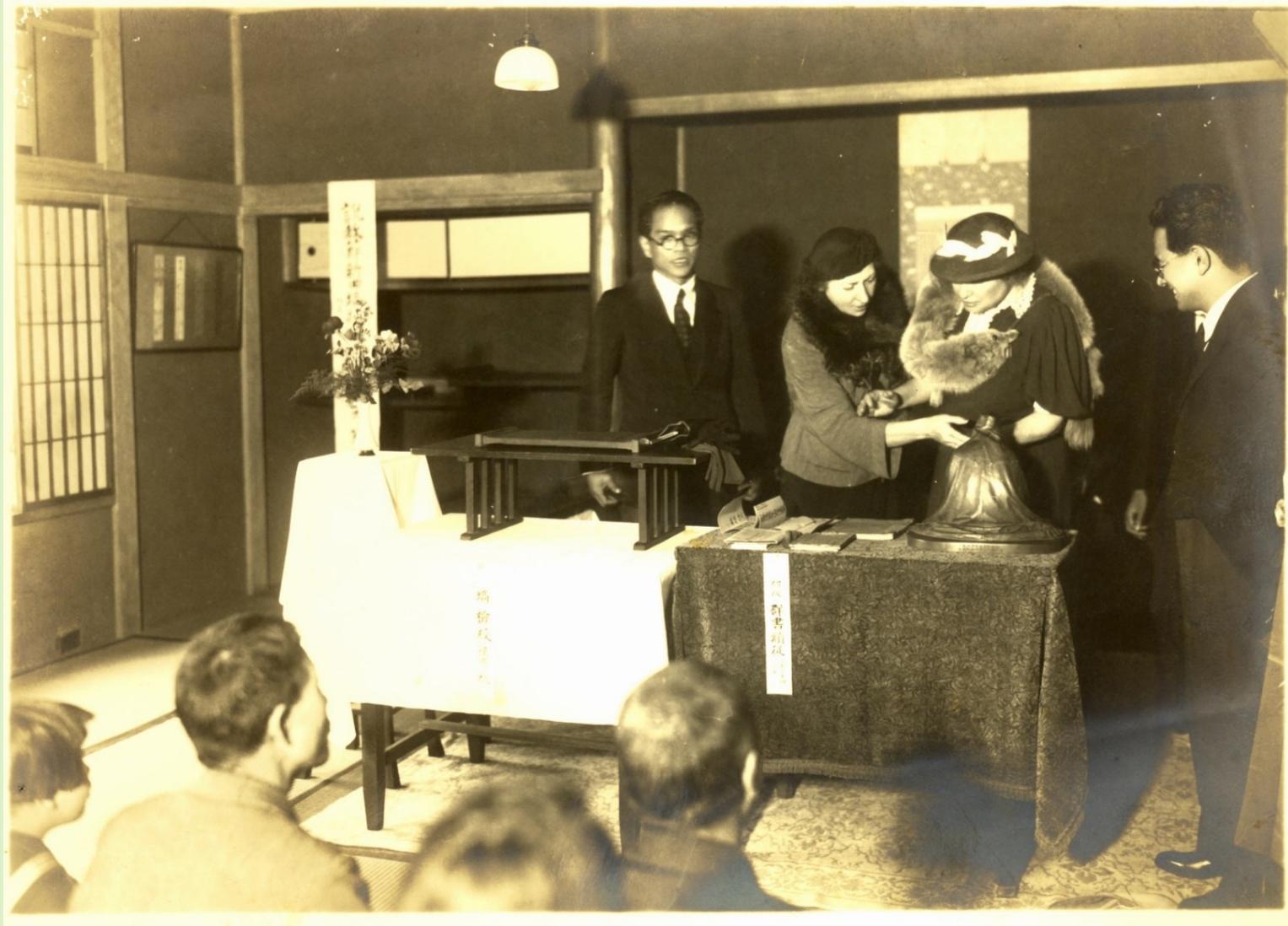
日本には昭和12年、昭和23年、昭和30年と三度訪問しています。



塙先生の銅像や  
文机に触れて、  
塙先生の業績を  
称えました。

ヘレン・ケラーさんは、昭和  
12年4月26日午後4時自動  
車が社団法人温故学会の玄関に  
横付けされました。

多くの方々が早くから訪れ、  
その時を待っていました。  
版木と銅像、愛用の机に手を触  
れ驚嘆の表情を浮かべます。  
さらに「歌合せ」の版木摺り  
立てをしている様子に感動。



関西大学教授  
岩橋武夫

この人が日本  
来訪を要請  
(日本ライトハウス  
創立者)

中央社会事業協会  
森岡正陽  
(英語通訳)

ポーリー・  
トムソン  
(指話通訳)

ヘレン・  
ケラー

社団法人  
温故学会

# ヘレンケラー生誕地視察団

平成28年6月23日～28日（4泊6日）

竹並万吉さんの呼びかけに応じ、本庄市民を中心に、「ヘレンケラー生誕地視察団」は結成されました。

依頼した旅行社は添乗員兼通訳を一人派遣してくれましたが、タスカンビア市での行程は何も決まっていませんでした。

私は竹並万吉さんから事務局を依頼されましたが「市民中心の民間視察」のために、本庄市役所に行程を依頼する訳にもいかず、手がかりは何も無いので、先ずは1か月間かけて「英語で塙保己一先生の業績を称えるホームページ」を作る事にしました。

<http://www.honjonet.net/hanawa-e/>

# Hokiichi HANAWA



Hokiichi HANAWA (1746-1821, died aged 76)

The famous Blind Scholar of Japan.

He compiled "Gunsho-Ruijyu" despite of blindness.

"Gunsho-Ruijyu" is a books that he had published, that was a great collection of old documents.

## About Hokiichi HANAWA

Button	Contents
Childhood	The birth place is Hokino Village (now Honjo city)
The study age	He went to Edo(Tokyo) for study
Wagaku Koudansyo	Classic Japanese literature study and university
Gunsho Ruijyu	Great collection of Japanese old documents
Helen Keller	Relation with Helen Keller
Onko Gakkai	Onko Academic Society in Tokyo
Book	A Bridge between Japan and the United States

Onko Gakkai

Onko Academic Society in Tokyo

Book

A Bridge between Japan and the United States

Honoring Association

Honoring Association in Honjo City

Friendship Association

Honjo International Friendship Association

**We Visit Tuscumbia City From 23 to 28 on June in 2016 (6 days and 4 nights)**

Button

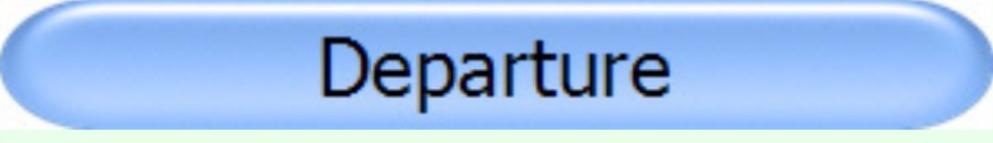
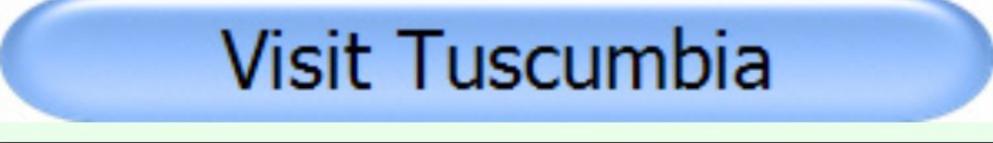
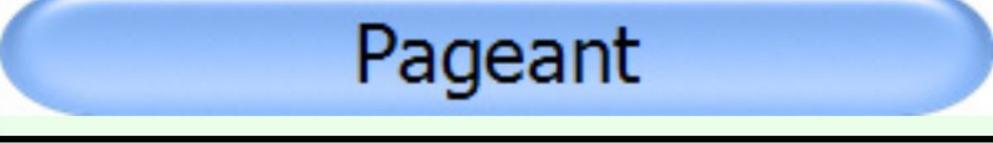
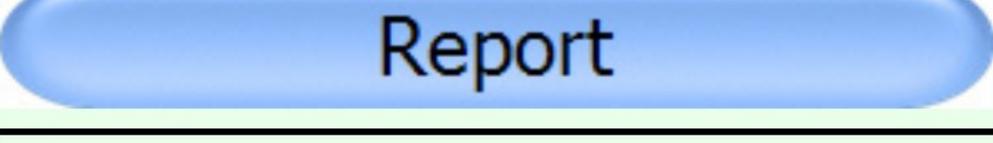
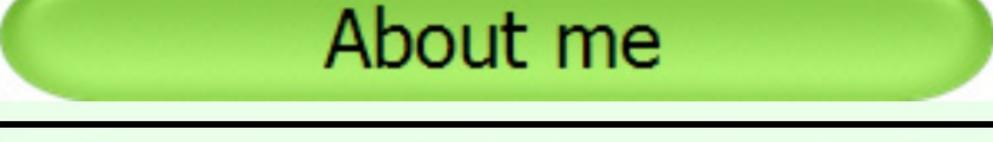
Contents

Visit group

Helen Keller birth place visit group

Departure

Departure to Tuscumbia

Button	Contents
 Visit group	Helen Keller birth place visit group
 Departure	Departure to Tuscumbia
 Visit Tuscumbia	We visited Tuscumbia City
 Pageant	The Miracle Worker at Ivy Green
 Report	Reported to the mayor of Honjo city
 About me	Profile of Manabu Tanaka
 Email to Manabu Tanaka	<a href="mailto:gakusan@tanaka.nifty.jp">mailto:gakusan@tanaka.nifty.jp</a>

Email to Manabu Tanaka

<mailto:gakusan@tanaka.nifty.jp>

## Japanese Website (Sorry Only Japanese Language)

Button	Contents
Honoring Association	Honoring Association in Honjo City
Onko Gakkai	Onko Academic Society in Tokyo
About Hanawa	About Hokiiti Hanawa of Honjo City Hall
Friendship Association	Honjo International Friendship Association
Hanawa Award	Hokiichi Hanawa Award of Saitama Prefecture

英語ホームページを作成した上で、英語の電子メールを作り、アラバマ州タスカンビア市長など4個所宛てに依頼しました。

そして「ヘレン・ケラー生誕地訪問団」の出発日の一週間前に、市長から「歓迎する」と言う返信メールが届きました。

そのメールを印刷し本庄市役所に持参して「本庄市長の挨拶文」を依頼しました。

本当に奇跡的な訪問日程でした。

『吉田市長の手紙』

タスカンビア市長

ビリー・シューメーカー様宛

(実際には英文を提出)

私は日本にある本庄市の市長、吉田信解と申します。私たちの市は塙保己一の生まれ故郷です。彼は子どもの頃から目が不自由でありながら、約200年前、偉大な国学者のひとりとなりました。

竹並万吉氏が率いる塙保己一の支援団体が、ヘレンケラーフェスティバルへの参加のため貴市を訪問すると伺いました。このたびは市長にお目にかかる貴重な機会をいただき、深く御礼申し上げます。このような草の根交流により、私たちの相互理解や協力がいっそう深まるものと信じています。いつの日かお目にかかれる日を楽しみにしております。

敬具

本庄市長

吉田信解

24 June 2016

Dear Mr. Billy Shoemaker,  
Mayor of Tuscumbia City,

I am YOSHIDA Shinge, Mayor of the Honjo city in Japan.

Our city is the birthplace of Mr. HANAWA Hokiichi, who has been blind since childhood and was one of a great person in Japanese literature around 200 years ago.

I heard that the group of Mr. HANAWA's supporters, headed by Mr. TAKENAMI Mankichi, will visit your city for participating in Helen Keller Festival.

I would like to thank you for giving them special opportunity to meet with you.

I believe that these grass-roots exchanges will strengthen our mutual understanding and cooperation.

I look forward to seeing you some day.

Yours sincerely,

吉田 信解

YOSHIDA, Shinge  
Mayor of Honjo City

英文メール



アラバマ州



タスキャンビア市

内陸の6月は暑かった

# ヘレン・ケラー生誕地訪問団の行程

平成28年6月23日～28日（4泊6日）

## 【6月23日午前 成田空港を出発】

ヘレン・ケラー生誕地訪問団（団長：竹並万吉）11人は、本庄市長からタスカンビア市長宛の挨拶文も持参して、ヘレン・ケラーさんの生誕地（アラバマ州タスカンビア市）に向けて出発しました。



ヘレン・ケラー生誕地訪問団 成田空港

# ヘレン・ケラー生誕地訪問団のメンバー

竹並万吉（団長）、高橋和美（市議）  
武正正道・鹿田富一・笠原勝（本庄市民）  
齊藤幸一（温故学会）、大原皓子（知人）  
大塚郁代（視覚障害者）・大木とし子（介助）  
岸龍也（旅行社の添乗員・通訳）  
田中学（事務局）

旅行社の添乗員以外は、総て自費参加です。

## 【6月24日 タスカンビア市長との会見】

タスカンビア市役所の談話室で挨拶し、タスカンビア市長から金色に輝く「市の鍵」を贈呈されました。

次に本庄市長からのメッセージとお土産を贈呈、温故学会からのお土産の際に、iPadで温故学会の版木倉庫と群書類従の版木を刷る2分間のビデオ映像（英語字幕付き）を見てもらいました。

タスカンビア市で  
市長さんに面会



TUSCUMBIA  
CITY HALL

# ① 玄関前で挨拶



# ② 庁舎内で市の鍵を貰う





土産の法被 (ハッピー・ウェア)



タスカンビア市長と「ヘレン・ケラー生誕地訪問団」記念写真

# 【6月24日午前 ヘレンケラー図書館図書館訪問】



タスキャンビア市長が手配してくれた  
トロリーバスでヘレンケラー図書館へ



HELEN KELLER PUBLIC LIBRARY

511

ヘレンケラー図書館



タスカンビア市長と「ヘレンケラー肖像」の前で記念写真



# ヘレンケラー肖像画



ヘレンケラー図書館でタスキャンビア市長と  
「ヘレン・ケラー生誕地訪問団」記念写真

# 【6月25日午前 ヘレン・ケラーの生家】

午前中にヘレン・ケラーさんの生家を訪問し見学しました。生家が公開の博物館になっている事に感謝して、母屋の室内や子供の頃の家、そして「水と言う単語を理解した井戸」を見ました。



# アイビー・グリーン（ヘレン・ケラーの生家）

アラバマ州北部のタスカンビア市にヘレン・ケラーの生家があります。美しい緑に囲まれアイビー・グリーンと名付けられた 640エーカー（約260万m<sup>2</sup>）の敷地に、三重苦を背負いながらもラドクリフ大学（当時の米国における女子教育の名門：現ハーバード大学）を優秀な成績で卒業し、生涯を通じ社会福祉活動や平和運動に献身したヘレン・ケラーの生まれ育った家が建っています。





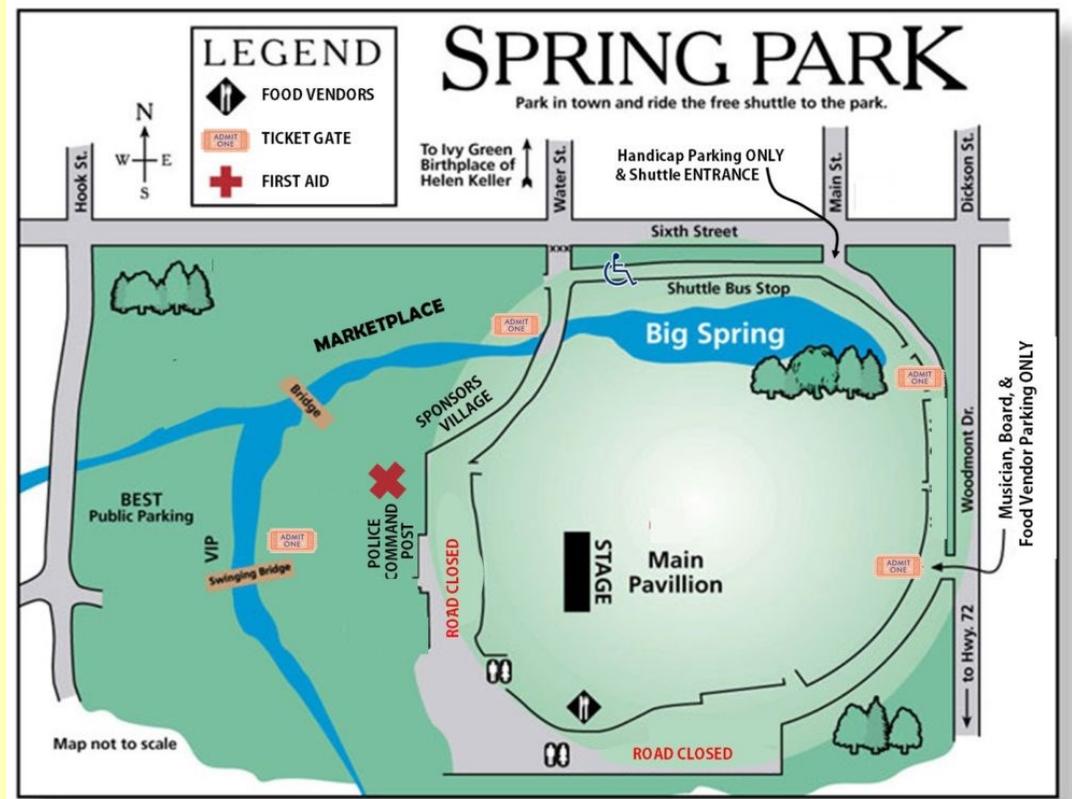
ヘレン・ケラーの生家

# ヘレンケラーフェスティバル

ヘレン・ケラーの誕生日6月27日の前後に、タスカンビア市にてヘレン・ケラー・フェスティバルが毎年開催され、パレード・出店・スポーツイベント等が行われます。



# フェスティバルの公園







私はヘレンケラーのTシャツと  
マグカップとネクタイピンを買ってきました



参加者は熱心に  
歩き回って見学



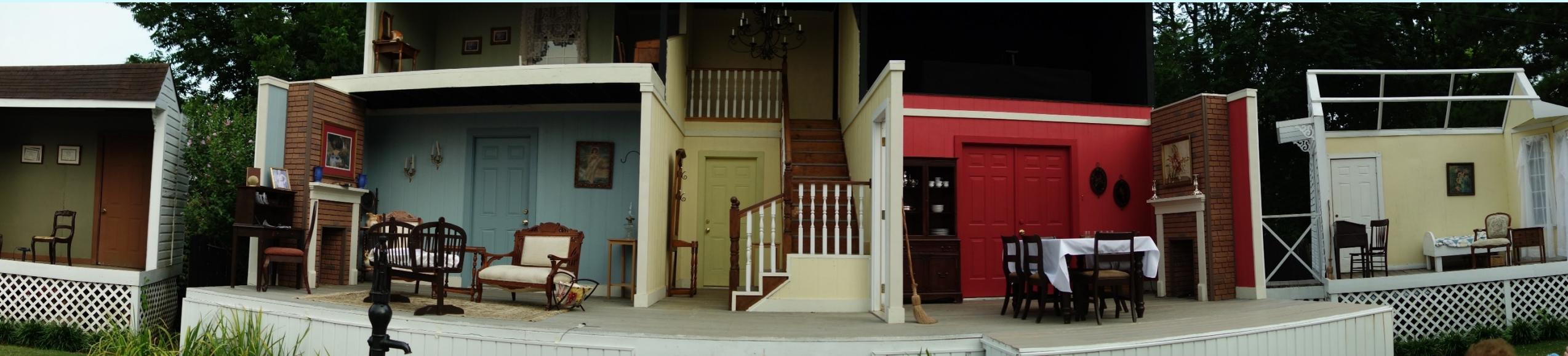


私は暑すぎるので、公園  
の日陰でレモネードを飲  
んで休んでいました

# 【6月25日夜 野外劇「奇跡の人」を見学】

6月25日の夜は、生家の特設ステージで「奇跡の人」の野外劇でした。

市民による素人の芝居とはいえ、素晴らしい熱演でとても感動しました。

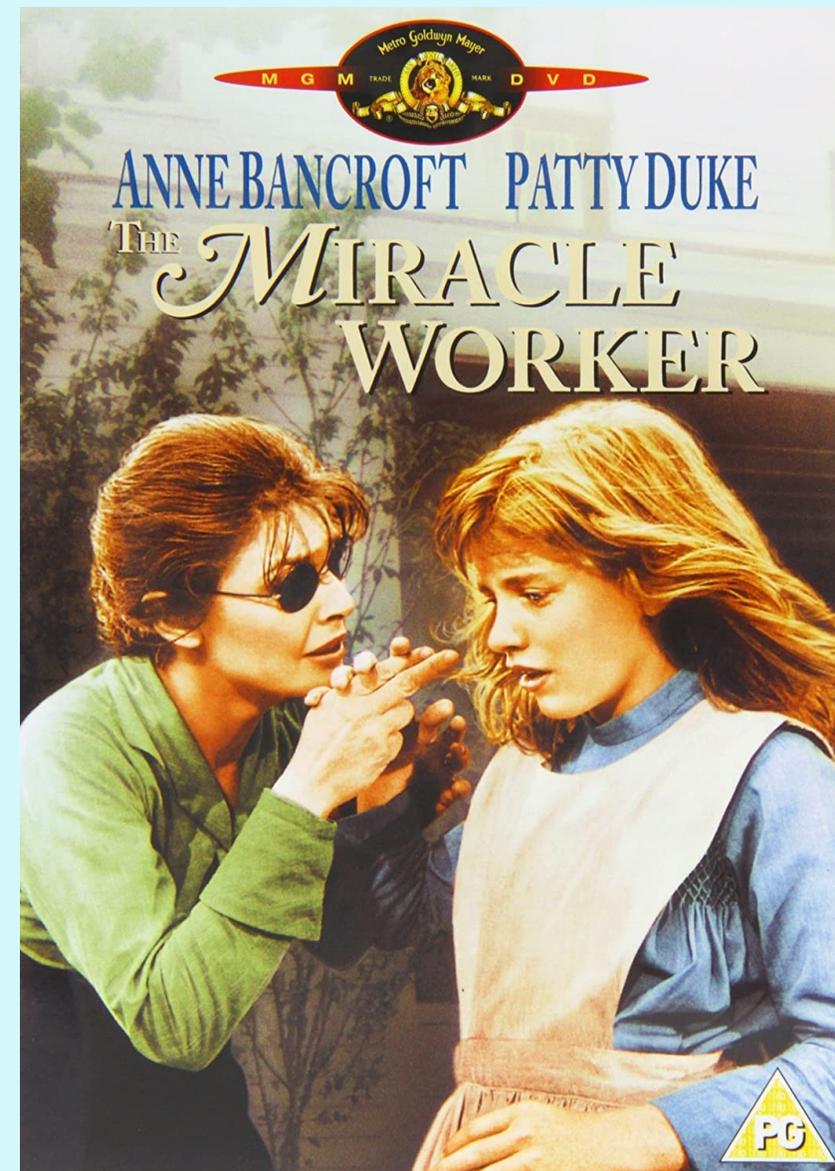


毎年6月頃にはアイビー・グリーン内の奥にある野外劇場で、ウィリアム・ギブソン作「The Miracle Worker (奇跡の人)」という演劇が上演されます。



演劇終了後には、何人かの出演者と交流して塙保己一先生の事をPRしました。





日本では「奇跡の人」をヘレン・ケラーと認識していますが、原題は「The Miracle Worker」で、家庭教師としてヘレンを教育したアン・サリバン先生の事を指します。

「奇跡を起こした仕事人」の偉業を称える意味です。

アン・サリバン（1866-1936年）は、ヘレン・ケラーの家庭教師です。通称「アニー」、日本では「サリバン先生」で知られている。ヘレン・ケラーは彼女のおかげで、目、耳、声の三重の身体障害を克服した。

3歳の時、目の病気トラコーマとなる。9歳のとき母親が亡くなり、救貧院へ移り住んだ。アン自身も目の病気の悪化によって視力を失う。

病院の看護婦からキリスト教の教えを説かれ、14歳の時にパーキンス盲学校に入り、訓練と数度の手術の結果、視力を回復する。ただし光に弱く、常にサングラスをかけていた。

聴覚障害児の教育を研究していたアレクサンダー・グラハム・ベル（電話の発明者として知られる）の紹介で、アンがケラー家の家庭教師をすることになった。

1887年3月3日 - ヘレン・ケラーの家庭教師として教えはじめ、ラドクリフ大学へ入学。ヘレンの旅行や、様々な講演旅行へ同伴して、彼女を支援し続けた。



ヘレンケラー生誕地視察団は、平成28年6月30日に本庄市長と本庄市国際交流協会会長に報告しました。



本庄ケーブルテレビは、夜の市民ニュースで紹介



## 帰国後、 市長に報告





# 市民ニュース



2016.6.30 放送

私が製作した英語ホームページの内容を  
見てみましょう。

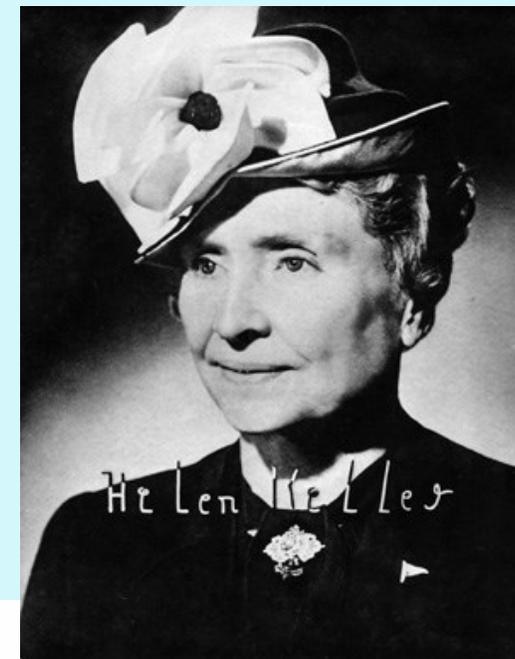
<http://www.honjonet.net/hanawa-e/>

なお、このホームページは、即席で作成  
し、英文も正確とは言えないので、あま  
り公表していません（笑）

**制作** ヘレンケラー生誕地視察団

**協力** 本庄市、本庄市国際交流協会  
米国アラバマ州タスカンビア市  
公益社団法人温故学会  
本庄ケーブルテレビ

**撮影・編集・資料作成**  
田中 学



**ご清聴に感謝申し上げます**



この人は視覚障害者ですが積極的に参加

**Ice Cold Beer**

Budweiser	-\$3.50
Bud Light	-\$3.50
Coors Light	-\$3.50
Miller Lite	-\$3.50
Michelob Ultra	-\$3.75
Yuengling	-\$4.00
Landshark	-\$4.00
Corona	-\$4.00
Sweetwater 420	-\$5.00
Abita Amber	-\$5.25
Abita Andy Gator	-\$5.25

**Pabst Blue Ribbon**  
**\$2.00**



# 参加した視覚障害者が持参した写真



ヘレン・ケラー

何と、この視覚障害者は昭和三十年のヘレン・ケラーの三度目の来日に立ち会っていました。



TVA (Tennessee Valley Authority)

テネシー溪谷開発公社は、1933年米国のニューディール政策の一環として、テネシー川流域の大規模な総合開発を目的として設立された。